

ITC-J 第38期 テーマ : 心機一転 Guiding the Way

カウンスルNo.7 第32期 テーマ : 個の輝き ~Enjoy Yourself~



カウンスルNo.7 第32期会長 下手 泰子

夏のまぶしい日差しの中で、向日葵が一斉に青い空を見上げています。世界中の活動がフリーズしたような日々でした。それでも時は確かに過ぎ、季節は巡り、今期から来期へと交代の日が近づいてまいりました。

各クラブにおかれましては、3月より通常通りの例会ができず、ビジネスのみあるいは例会を開催せずメールによる報告や審議をするといった対応をなさり、運営に大変ご苦勞をなさったことと思います。当カウンスルでも通信により報告、会則の修正案などの審議を進めて参りました。第3回会合では、クラブ対抗の「ビブリオバトル」を行う予定にしていたのですが、会合中止のためこの会報誌の紙面とホームページで各クラブからお勧めの本の紹介をして頂きました。どの本も「読んでみたい!」と思わせるものばかりで、実際に紹介のお話を聞いてみたかったという思いでいっぱいです。どうぞ紙面をご覧ください。

さて、今回の新型コロナウイルス禍の中で強く感じたことがあります。ITC-Jの組織はEメールによる連絡系統がきちんと確立されている事、ホームページでの情報発信等が整備されている事、そしてそれをきちんと会員が使いこなしているという事です。騒動の中で、国においてオンラインによる活動が推奨されていたわけですが、私たちの組織が何年もかけて構築してきたこの体制は正しく危機に対応することのできる時流にあったもので有ることを大変誇りに思いました。会合あるいは例会ができない緊急の事態でしたが、常に皆様とつながっているという確信を持つことができました。もちろん、一堂に会して顔を見合わせて笑顔を交わし、話し合い、審議することが、最も大切な最上のコミュニケーションではありますが、そうできない時、会の運営になくてもならないものだと思います。

1年前の就任式で、インストラングオフィサーがこうおっしゃいました。「会長という立場は、会員が与えた最高の荣誉です」と。自分の力の足りなさを痛感しながらも、しかし、皆様に与えて頂いたこの一年は忘れることのできないとても大切なものとなりました。お送りした一つ一つの文書、一言一句に至るまでが貴重な学びの場となりました。沢山の励ましの言葉と暖かな援助を頂きましたこと、心から感謝申し上げます。有難うございました。

どうか来期は世界が、日本が、そしてITC-Jにとっても穏やかな一年となりますように祈りながら、ご挨拶とさせていただきます。

クラブのチャンプ本やお勧め本の紹介

鳥取

チャンプ本 「コーヒーが冷めないうちに」
著者：川口 俊和 出版社：サンマーク出版

発表者コメント 石前富久美

この本は2017年本屋大賞にミネートされました。
セピア色の表紙、そして帯に書かれている「お願いします、あの日に戻らせて下さい」「ここに来れば、過去に戻れるって、本当ですか?」「4回泣けます」この言葉に惹かれ手に取りました。
不思議な噂のある喫茶店を舞台に「恋人」「夫婦」「姉妹」「親子」この4編で構成されています。
過去に戻るにはルールがありそのカギを握るのは、白いワンピースを着た謎の女。その女の機嫌を伺いながら過去に戻り事実を知り、愛と後悔を実感します。流す涙は嬉し涙なのか、悲しい涙なのか。さあコーヒーを注ぎます。
読んで涙の意味を理解してください。制限時間は「コーヒーが冷めないうちに」



お勧め本「堀 文子 群れない、慣れない、頼らない」100歳記念
出版社：平凡社 別冊太陽

米子

発表者コメント 岡崎祥子・住田実寧子

日本画家 堀文子の百歳を記念して編纂された画文集です。

巻頭に「季の中で咲いては散ってゆく生命の流れ、私は花の生命そのものを描きたいと思う。」とあります。これはおそらく画家堀文子の終生のメインテーマであると推察できます。また堀文子は「一所不住の人生」を送った画家でもありました。「文明の便利さの中に居ると一番大切なものが見えなくなってしまう。」と次々に居を移していくのです。さらにバブルに浮かれた日本に嫌気がさし、イタリアのトスカーナ地方と軽井沢で半々の制作をし、70歳後半には、アマゾンを訪れ、マヤ、アステカ、インカ遺跡の取材に赴きます。81歳の時にヒマラヤ山麓で出会った幻の花「ブルーポピー」の毅然とした生き方、よりかからず、媚びず、たった一人で己を律する姿勢に、共感したと堀は添えています。

「群れない、慣れない、頼らない」堀文子の生き方に感銘を受けると共に、絵画に添えられた全ての文章は、あたかも1冊の自叙伝を読み切るほどの手応えを感じます。

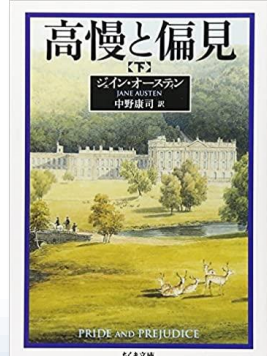
「群れない、慣れない、頼らない」堀文子の生き方に感銘を受けると共に、絵画に添えられた全ての文章は、あたかも1冊の自叙伝を読み切るほどの手応えを感じます。

倉吉

お勧め本 「高慢と偏見」 著者:ジェイン・オースティン 出版社:ちくま文庫

発表者コメント 藤井豊子・小倉恵子

この小説は、18世紀から19世紀初頭のイギリスの片田舎を舞台に、女性の結婚事情と、誤解と偏見から起こる恋のすれ違いを描いた恋愛小説です。内容はイギリス流ユーモアにあふれて読みやすく、一度読み始めると、なんということのない日常の繰り返しのようですが、次は何が起こるのかと、ページをめくる手が止まりません。「金持ちの独身男性はみんな花嫁を募集中にちがいない。これは世界一般に認められた真理である」というインパクトのある書き出しで始まる本書は、一人の独身女性が紆余曲折を潜り抜けて結婚までたどり着く物語です。若く美男子の大地主ダーシーは出会ったころ、彼の態度や行動は傲慢でした。しかし明朗活発なエリザベスは社会的な立場や性別を気にすることなく、ダーシーに堂々と意見を述べるのでした。これは当時の女性としてはたいへんめずらしく、自我の確立した女性であったと思われます。エリザベスは現代にいてもおかしくありません。共感できるヒロインがライバルや階級差、社会の壁と戦いつつ、ついに恋の勝利を収めるのです。そして、一方ダーシーは、このような率直なエリザベスに少しづつ心惹かれていきます。やがて、聡明な二人は、理解しあい、ハッピーエンドになります。自分の意志を持つことも、他者を受け入れることも難しいことです。この二つが青春のまぶしい季節の中で描かれていることが、現代の私たちにも伝わり、共感を覚えるのだと思います。



カウンスル第3回会合で「ビブリオバトル」クラブ対抗戦を予定していましたが、新型コロナウイルスの影響で中止になりました。「ビブリオバトル」に出場予定だった「クラブのチャンプ本」または「クラブのお勧め本」を紹介していただきました。さて皆様が一番読みたくなった本はどれですか？ カウンスル第一副会長 高野美代子

米子マンデー

チャンプ本 「サクリファイス」
著者:近藤史恵 出版社:新潮文庫

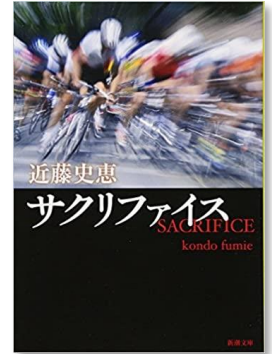


発表者コメント 柳田美奈子・藤瀬みか

題材は自転車ロードレースという日本ではマイナーなスポーツですが、この一冊を読むだけでこのスポーツのとりこになること間違いなし！チームの勝利のためエースに尽くすアシストのプライド、ライバルとの駆け引き、大地を走る爽快感、リアルな描写にぐんぐん引き込まれます。純粋で誠実な選手たちゆえに胸の張り裂けるような悲劇が起こってしまう・・・読み終わった後は身体中が感動と涙で満たされていることを保証します。

フロアーのコメント

3組の発表を聞きながら感動と興味を覚えるのは、発表者の伝える力と視点の持って行き方で随分違う事に気づきましたが、それぞれ楽しかったです。



チャンプ本 「利休にたずねよ」 作者:山本兼一 出版社:PHP研究所

発表者コメント 渡部洋子・岡 滯子

(渡部)

特に読書の習慣もなく、茶道の心得も殆どない私ですが、読み始めると利休の生きた時代背景、侘茶の美学に引き込まれて行きました。利休が切腹しなければならなかった本当の理由とは・・・皆様には是非読んでいただきたい一冊です。

(岡)

天下人秀吉に仕えた男、千利休の茶人として生きた小説です。おのれの美学だけで秀吉と対峙した男、秀吉自身どうしても利休を超えられなかった。利休の茶の道が、寂とした異界に通じてしまったのは、ある女との鮮烈な恋。女にもらった緑釉の香合。その香合を茶室の床に置き切腹。直木賞受賞作品です。

フロアーコメント

本の題名が「利休にたずねよ」とあるが、何をたずねよなのかその由来は？

フロアーコメントに対して、、、

どんな茶席であっても利休が水指や茶入れの置き場所、畳の目一つ動かしただけで、手前の座に凜とした気韻がうまれ、席の空気が張り詰めてくる。利休にたずねれば間違いなく、そこに合う絶妙のかげん、あんばいを心得ているからである。



出雲

とっとり砂丘

お勧め本 「笑顔という、たったひとつのルール」
著者:山野愛子ジェーン 出版社:幻冬舎

発表者コメント 松下恵美・北村由美

「継承」前の代からのものとして精神、身分、仕事、事業を受け継ぐこと。日本の美容界を牽引してきた初代・山野愛子さん。その「名」を18歳の高校卒業の日に突然！！「継承者」として生きるよう告げられた山野愛子ジェーンさん。数々のプレッシャーの中、それらを乗り越えてきた彼女の半生が描かれています。彼女の優しさあふれる笑顔の裏には一筋縄ではいかなかった人生があったのです。彼女は言います。苦しい時に私を救ってくれた言葉がわりの「SMILE」それが私の原動力だと。

日下部恵子第一副会長推薦文

この本は、著者の半生が書かれています。読み進めていきますと、終盤には、「気配り、心配りが日本の美」また「想像力が人をより幸せにする」「精神美をもっとも表現する『スマイル』」など人々が忘れかけていた心が書かれています。一度読んでみてください。気持ちが豊かになりますよ。





講師を囲んで



ワークショップの様子



講師の熊埜御堂朋子様

鳥取

ワークショップ「攻めのコミュニケーション！？とは」

鳥取クラブは3月例会でNHK鳥取放送局局長 熊埜御堂(くまのみどう)朋子(ともこ)様をお迎えし、クラブ間交流例会を開催しました。ワークショップ「攻めのコミュニケーション！？とは」のテーマの下、Eテレやラジオ第2放送編集長のご経験から番組制作について、映像を交えながらお話をいただきました。その中にはキーワードとなる“攻める！”がたくさんあり、興味深く心に響くお話でした。

ワークショップは全員参加で“私の好きなテレビ番組”を選び、何故その番組を選んだのかを即興で発表しました。会場から進んで声をあげていただき大いに盛り上がりました。

新型コロナウイルスが心配される中、沢山のお客様にお越しいただき交流例会を開催することが出来ました事は幸いでした。

会員委員会委員 柴田 詩緒



例会風景



米子

「新型コロナウイルス対策」

米子クラブの4月例会はコロナの感染拡大が深刻化しつつある状況で、急遽ビジネスのみの例会とし親睦食事会もなく解散しました。

5月例会は交流プログラムの予定でしたが、13日通信による例会としました。7日の役員会はパソコン上のアジェンダに向かいメールで協議しました。例会で審議する4月例会議事録、会計報告等4種の審議事項と次期クラブ役員選挙については、事前に会員に審議、投票を依頼し例会当日に結果を配信しました。5月例会議事録完成に向けパソコンを酷使してのメールのやり取りは半端ではありませんでした。外出自粛で家に籠っていたからできた面もあります。6月例会は短縮してビジネスと役員就任式の開催予定です。

会長 谷田恵美子



倉吉

開催迷った4月例会

刻一刻と変化する新型コロナ情報と「会員の安全」、「ITC-Jの活動の継続」の間で、中止？開催？縮小？と迷いに迷っての4月例会開催でした。しかし、予期せぬ会場変更、広いスペースの確保、例会時間の短縮方法、クラブ細則の一時停止の方法は？と次々と問題が出てきました。長机1台に一人が着席しソーシャルディスタンスを意識しながらのセッティング。開会前から、細則の停止、会場変更の追認をとり、例会時間を少しでも短縮するために、議事録朗読の省略をその場で会員に承認をとる・・・などなど議事法や会則の大切さをこんな時だからこそ痛感しました。マスク越しに目と目を合わせ、しばらく一緒に過ごし、お互い元気なことを確認できた39分間。濃い時間でした。短時間ながら議事録はいつもより記載事項が多めに感じたのは私だけでしょうか？

書記 吉田知子



広報誌はこんな感じです



米子マNDER

「例会無くて何してる？情報交換しよう！」

新型コロナウイルスの感染拡大防止のため、わがクラブも4月と5月の例会はメールでの例会になった。例会が無いと毎月例会の様子を広報誌として発行しているが、それが出来ない事になる。役員会と会員広報委員会で検討し、「例会無くて何してる？」というテーマで会員全員から原稿を募ることにした。原稿は届いた順番に挿入して行き、写真も付けて7頁になった。一番多かったのは、普段できない庭の草取りや断捨離、花の植替え等々。島根半島の山に登った人、毎朝城山に登っている人、農業デビューした人、孫が休校になり家で留守番させているとか。日常の過ごし方が変わったようだ。5月例会の時にメールで広報誌を配信したら、皆の様子が分かって良かったと好評だった。今はステイホームで会えないけど、この広報誌を通して会員の仲間意識は強くなったと思っている。

6月例会は、何とか開催していつもの広報誌を作りたいと願っている。

第二副会長 仁科悦子



ITC-J出雲クラブ
30周年記念誌



手作りマスク

6月例会はマスクを着用して

出雲



出雲クラブのStay home

未曾有の誰も経験したことのない新型コロナウイルスによって世界中の人々の生活が一変しました。まぎれもなく出雲クラブでも4月27日に予定しておりました30周年記念例会を延期せざるを得ない状況となり、更に5月例会も中止となり会員はみなStay home お家にいまいしょうとなりました。日頃どちらかといえばお家の中よりお家の外へ関心を向けているITC-J会員にとっては外出できないことは大変苦痛なことと思ひ、会員へ「みんなどうしてる?」「もうITC-Jのことは忘れちゃったか?」と会員の状況を共有してはどうかと、一斉メールを配信してみました。皆さんの返信素晴らしかったです。マスクづくり、読書、お家の断捨離(軽トラックまで購入した人もありました)、家族の為のお料理作り、お習字の練習、ガーデニング、畑づくり、等々、皆さんお家の中でも時間を有効に使っていました。やはりこんな時にもITC-Jでの訓練が発揮されているのだと感心し、うれしく思った2か月でした。6月例会は何とか開催出来そうです。やはり顔を合わせることがどんなに大切であるか再認識させられたStay homeでした。



会長 布野泰子



お客様でいっぱいの会場



みんな熱心に聞き入る



見事な錦絵の数々

とっとり砂丘

クラブ間交流プログラム

「文化としてのスポーツ」 講師 油野利博様

とっとり砂丘クラブのクラブ間交流プログラムは10月15日、講師に鳥取大学名誉教授の油野利博様をお迎えして開催されました。長年にわたり教育者としてスポーツの発展に尽力された油野様は、『文化としてのスポーツ』と題して鳥取県のスポーツの歴史や取り組みについて、たくさんの画像とともにユーモアを交えながら講演されました。会場には、相撲にも造詣の深い油野様所有の貴重な錦絵が多数展示され、鬢付け油の香りと相まって華やかな雰囲気盛り上げました。

カウンスルや他クラブなどから20名以上のお客様にご出席いただき、和やかで賑やかなひとときを堪能しました。

会長 平尾静代

通信による会則修正について

新型コロナウイルスの感染拡大により、ITC-J組織の活動もその様相を一変させました。各レベルに於ける会合の中止はもとより、所属カウンスルやクラブでの運営状況の様変わりを目の当たりに致しました。

その様な折に、当カウンスルの会則を見直し、あらゆる状況に適応できるよう考えられた会則に対する修正案2件の提出は、迅速で時宜を得た対応であったと考えます。

修正案に対する修正動議の提出もなく、各クラブでは適切に審議されたことと思います。カウンスル役員会による審議手順は、所属クラブのお手本を示すのに有益であったと思います。

私達は、未曾有の局面に遭遇しましたが、ITC時代から続く学びの継続がしっかりと活かされていたのを感じました。良い経験をさせて頂きましたことに感謝申し上げます。

最新のカウンスルNo.7会則・細則は、ホームページに掲載しますので、ご確認ください。



会則・決議委員長 野村恵子

「努力に実り有り」

2020年3月30日(月)に「第6回 ITC-Jのつどい “いまよりちょっと素敵なあなたに・・・”」を開催する準備を進めていました。

講師の裕紀(ゆき)様の美しい動きに魅了されている皆様の笑顔、ワークショップでITC-J会員の言葉の力に心惹かれるゲスト・・・私の脳裏には開催当日のいろいろなイメージが浮かび、楽しみと期待に心膨らむ日々でした。そんな時、新型コロナウイルス感染拡大のニュースは広がりました。

「ITC-Jのつどい」の開催はかないませんでした。準備の努力は実りとなったと確信しています。



会員委員長 大津理恵

「コンテスト中止も学びに」

各クラブ優勝者が揃いコンテストの準備を進めていた矢先、コロナウイルス感染拡大の渦中に。感染のパンデミックな状況に第2回会合は中止を余儀なくされました。人との接触によってのみ広がっていくウイルス禍に、集会の自粛は賢明な判断でした。

コンテストからは中止に対する安堵の言葉もあり、互いの思考が重ね合わさる様なコミュニケーションの深まりを感じました。スピーチコンテストは話し手と聴き手が心を通わせ、全員が共に学び合う場です。

良いコミュニケーションをもって活動すれば何事もその過程が学びとなります。



スピーチコンテスト委員長 濱崎恭子

クラブのホームページが、続々アップされた第32期

カウンスルNo.7ホームページのクラブ案内からアクセスしてください。



鳥取



米子



米子マンデー



出雲

『十七音で言葉力!!』

鳥取クラブ 長石啓子(玉梓鳥取支部代表)

俳句って世界で一番短いポエムです。

普段の生活の中で、感動したこと、心に残ったことなど「季語」を入れてまとめればよいのです。

「誰の心にも詩がある」……………。

貴女も俳句の世界に入ってみては如何でしょう!! きっと新しい発見がありますよ。

ITC-Jの仲間の句を紹介します。

山桜登れば何かありそうな
 子どもにも自肅の二文字四月尽
 自転車の少年初夏の風を切る
 ぶらんこの高く高くと時流れ
 草の根を抜きし穴より蛙出づ
 古書店に差し込む夕日春の暮
 しゃぼん玉思い思いの空めざす

啓子
 悦子
 恭子
 篤子
 和子
 静代
 恵子



玉梓鳥取・米子支部合同吟行句会を砂丘と万葉歴史館で行なった。

大山ユートピア
 山頂の山小屋で
 鍋を囲むのが最大の楽しみです



走れ!マラソン部



京羅木山 焼きそばを作成中、やっぱりお昼ご飯が楽しみ!

週一回の合同ランニング



米子マンデークラブ 柳田美奈子

そこに大山があるから...マンデー登山部ができて4年、脚力の衰えでだんだん低山部になっていた頃、30周年を終えて一息ついた頃、「ホノルルマラソン目指さない?」と小酒さんが言い出しました。みんな「無理ムリむりい〜」と即答でしたが、30周年で燃え尽きた、でもかすかに残る火種がにわかにくすぶり始めました。挑戦の醍醐味を知ってしまったゆえか!? 「すねが痛い!」「腰が痛い!」を乗り越え少しずつ距離を延ばし、今では12キロのランニングを毎週有志(2~3名ですが)でしています。

今年のホノルルを目指していましたが凶らずも時間の猶予ができ、完歩ではなく完走を目指そうと話しています。今年の登山は自肅なので、目下「走れ!マラソン部」です。国内のマラソン大会が再開されれば、10キロ、20キロと順次エントリーしてホノルルに備えるべく奮闘中です。

【編集後記】 「ゴールデンリング3号」をお届けします。新型コロナウイルスの影響で、クラブ例会開催も儘ならない中、知恵と工夫を寄せ合ってITC-Jの学びを忘れなかった其々のクラブの様子を「クラブ例会あれこれpart II」に掲載しました。第3回会合で「ビブリオバトル」が予定されていました。クラブ対抗で競うはずだった「クラブのチャンプ本又はお勧め本」を紹介していただきました。快く原稿をお寄せいただいた皆様、そしてお読みいただいた全ての皆様にお礼申し上げます。

ゴールデンリング3号で元気なITC-JカウンスルNo.7を感じていただけたらとても幸いです。ありがとうございました。



(編集者:田中英子 編集スタッフ:柴田詩緒、廣田花江)